

きずなの郷

第81号
2026 秋

発行 社会福祉法人 厚生協会

令和8年9月15日

地域貢献

地域とともに歩む取り組み

厚生協会では、日頃から地域の皆さまとのつながりを大切にしながら地域の一員としての役割を果たすことを目的に、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。

小中学校等への出張手話授業

地域の小中学校・新得高等学校へ出向き、手話の授業を行っています。聴覚障がいについて理解を深めてもらうとともに、子どもたちが手話に触れる機会をつくることで、コミュニケーションの多様性を学ぶ場となっています。授業後には「もっと手話を覚えたい」「手話であいさつしてみたい」といった声が寄せられ、私たちにとっても大きな喜びとなっています。



▲小学校での手話教室の様子
(わかふじ寮)



▲ごみのポイ捨てやめましょう
(わかふじ寮)



▲新得町の美化に努めます
(わかふじ寮)



▲ごみのポイ捨てやめましょう・その2
(やすらぎ荘・新得やすらぎ荘)



▲6月5日、12日に町内のゴミ拾いを実施
(ひまわり荘)



▲道道忠別清水線基線の草取り
(屈足わかふじ園)



▲夏休みなかよし学習塾
(わかふじ寮)

わかふじ寮では木育活動を積極的に行っています。町内外で行われている木育イベントでのワークショップや新得町夏休みなかよし学習塾での木工指導など、モノづくりを通して木の温もりに触れる機会を提供しています。また、新得町で生まれた新生児への誕生祝い品贈呈事業は今年で10年目を迎え、新得高等学校支援学校木工科のお力添えもあり、令和8年8月までに約250名の新生児へ贈り物をお届けすることが出来ました。

その他、そば祭りや大雪まつり、秋祭りなどの地域行事にも出店し地域の活性化に協力しています。地域の皆さまと交流する貴重な機会となり、祭りのにぎわいの中で施設の活動を知っていただく場にもなっています。これらの活動は、地域の皆さまのご理解とご協力があつてこそ続けられているものです。私たちはこれからも、地域の一員としてできることを考え、職員一丸となって取り組んでまいります。

木育活動や行事に参加
わかふじ寮の取り組み

令和 7 年度 法人本部及び各施設・事業所の事業報告

■法人本部

令和7年度は前年度の介護報酬改定の流れによる、生産性向上（改善活動）に向けた取り組みを具現化する年となった。限られた人材の中で効率的、効果的にサービスを提供しながら、働きやすい職場づくりを目指す職場環境の改善、質の高いサービスの提供を検討する組織として、法人本部管理部に「生産性検討委員会」を立ち上げ、現状の把握、各業務課題となる点の整理などの取り組みを図った。

障害の分野では、居住系事業所の事業運営の透明性を高める上で、地域の関係者を含む外部からの視点を定期的に入れることが必須となったことに伴い、「地域連携推進会議」を開催した。

法人運営に関しては、各事業所における収益の推移などに基づき、富士道公認会計事務所からのご意見を頂きながら前年度の状況と比較する等の経営分析を図ったが、定員の充足不足や稼働率の低下、利用者の長期入院などの影響もあり大幅に減益となった。特に特養、地域密着の事業所については今後の運営に大きな課題が残った。

このような状況の中、法人全体で物価高騰による影響も見られる中、経費削減に取り組むと共に、利用者サービスの向上と運営の安定に向け事業計画に基づき以下の事業を実施した。

理事会開催（6回）、監事監査（4回）、評議員会開催（2回）、顧問契約（松浦弁護士）、監査契約（富士道公認会計士）、事業活動支援業務準委任契約（一柳社会保険労務士）、本部各専門委員会（管理部、施設・在宅事業部、研修部）、地域における公益的な取組

■わかふじ寮・第2わかふじ寮・わかふじワークセンター

利用者への支援については個別支援計画に基づき、ご本人の意向や支援状況に合わせて定期的な見直しを行い実施した。

利用者の高齢化や障害の重度化への対応については、ケース会議などで作業面、生活面の状況を確認し、現状に即した支援が提供できるよう内容を検討し、変更内容はSNSなども活用し職員に情報共有を図り支援に繋げた。

定員充足に向けた取り組みについては、高等支援学校等と連携を図り、体験実習の受け入れ、道内の実施機関への訪問や相談支援事業所等からの情報収集を行うなど、新規利用に向けての取り組みを図った。

新得高等支援学校との連携については、年間を通して現場実習、校外作業学習の受け入れの協力を行った。又、木育推進事業の誕生祝い品贈呈でも連携を図った。

虐待防止については、虐待防止・身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、研修会の実施やケース会議や個別支援推進委員会とも連携を図り、困難事案に対する支援方法などの検討を図り、職員への支援方法の周知徹底を図った。

居住系事業所の事業運営の透明性を高める上で、地域の関係者を含む外部からの視点を定期的に入れることが必須となったことに伴い、地域住民代表者や関係者等にご参集頂き、地域連携推進会議を開催、事業運営に係る意見を伺う機会を設けた。

新型コロナウイルス等の感染対策については、基本的な感染対策を遵守し感染予防に努めたが、5月に施設内で感染拡大が見られたことから隔離対応などの感染対策を行った。

施設整備については利用者の居室内の照明をLED照明に交換した。新型コロナウイルス感染対策については、基本的な感染対策を遵守し感染予防に努めたが、8月に施設内で感染拡大（クラスター）となり隔離対応などの感染対策を行った。

施設整備については居住棟内にエアコンの設置工事を行った。

①介護・生活支援部門

個別面談は相談があった場合に随時対応した。ケース会議についても定期的に開催し、利用者の状況から支援内容の検討などを行い変更した支援内容などについては、職員にSNSなども利用し情報共有を図った。又、モニタリングについても定期的に実施した。

②看護部門

新型コロナウイルス感染症については、基本的な感染予防対応は継続して実施した。

5月12日に利用者のコロナ感染が判明し、最終的に入所利用者4名、通所利用者2名、職員4名、計10名の感染となった。

新型コロナウイルスワクチン及びインフルエンザワクチン接種について、10月22日に実施した。新型コロナワクチンは利用者50名、職員8名、計58名、インフルエンザワクチンは利用者89名、職員53名、計142名接種した。

令和8年1月17日～2月13日にかけて感染性胃腸炎と思われる症状の利用者が入所利用者8名、通所者1名、職員2名、計11名に及んだ。感染者ゼロを確認する2月27日まで施設内の消毒対応を継続し、感染拡大を防ぐ対応を図った。

③授産事業部門

就労支援事業全体として目標を達成できた部門が少なく、特に木工部門の家具・建具においては、前年度末にかけて大口物件が重なった反動もあり、町内及び近隣において新規受注が少なく目標額の40%に留まった事が大きく影響し、事業全体での目標達成に至らなかった。

利用者の高齢化・重度化については、作業環境の改善、作業場の変更を行なうことで対応を行なった。今後は生産向上に向けた取り組みとして、作業工程の見直しや事業全体の連携強化に努め、都度状況に合わせた各事業の職員、利用者の配置見直しに取り組んでいく。また就労支援事業の今後の在り方についても、生産に繋がる作業内容や事業継承、事業内容の再編等について中・長期計画と照らし合わせながら検討を進めていきたい。

■わかふじ寮相談支援事業所

新型コロナウイルスが5類型に移行したが、施設における感染対応には変わりがないことから対面での面会は自粛し、事業所よりご本人の状況などの情報収集を行い、ご本人の意向や希望、要望を確認しながら必要と思われる事柄について助言を行った。

又、サービス等利用計画書の作成については利用者の状況や事業所での支援状況を基に見直しを行った。

■共同生活援助事業所 さくら

利用者への支援については、個別支援計画に基づき地域で落ち着いて生活ができる様に、「地域生活上のルール」や身の周りの事など自立した生活を送る事ができる様に支援を行った。食生活については家庭的な食事を提供する事を基本とし、利用者の嗜好や季節に合った献立で提供できる様に対応した。

新型コロナウイルス感染対策については、マスクの着用や手指消毒など基本的な対応の徹底を図った。

■新得白生舎

令和7年度の新得白生舎は運営方針として3つの「ものづくり」を掲げて取り組んできた。意思が尊重される「施設づくり」や仲間意識を持った「組織づくり」は職員をはじめ利用者も共通認識のもと積極的に取り組んでいる様子が伺えたと評価している。一方「地域づくり」については地域住民との交流が不可欠であり、通所授産施設という機能を考慮すると今後も十分な検証が必要であると課題が残った。

支援方針における更なる高い給与所得への取り組みは効率的作業の提供と適材適所の配置により、昨年度より10%増額（前年度4%増額）支給することができ、労務費全体を見ても昨年度同様の水準を配分することができた。これは以前より実施している洗濯方法の改善や光熱水費の節約など全員での取り組みが定着した結果と思われる。また授産作業においても利用者個々の能力を最大限に引き伸ばすことによりひとり一人に自信が生まれ、それぞれの意思を尊重した仕事への取組みが生産性の向上へと結びついたことと評価される。

利用者については上半期6月まで19名、下半期は20名でクリーニング事業を実施した。専門技術者が高齢のため後継者の発掘が近々の課題となっていたが、候補者の採用には至っておらず継続的な課題として残ってしまった。事業収入は45,245,150円となり、前年度対比で435,799円の増収となった。（令和6年度44,808,351円）

■聴覚障害者養護老人ホーム やすらぎ荘

老人福祉法及び関係法令並びに各種通知に基づき、利用者の自立支援のためのソーシャルワーク機能を強化し、利用者の生活意欲の増進等を図り、生きがいを持ち健康で安らかな生活ができるよう努めた。

個別型として、利用者一人ひとりの心身状態を考慮しニーズに応じた介護保険サービスの提供に努めた。

手話の普及と聴覚障害者養護老人ホームとしての役割については、人手不足の関係もあり十分な取り組みを行うことができなかった。

家族や各関係機関と連携を図り、利用者の多様性に沿った伴走型の支援に努めた。また、感染予防対策を講じたうえで徐々に社会参加も図れた。

ひまわり荘において長年にわたる多数の待機解消を図るため、町と連携し緊急性が高い方の受入れを行った。

特定施設等への転換については、シミュレーションを行った結果、他やすらぎ荘関係事業所への影響が大きいことから、転換の是非については時間をかけながら検討していくこととした。

措置費改定については、町と数回協議を行ったが改定には至らなかった。

※個別型とは、利用者と介護保険サービス事業者が個別契約を結び介護サービスを受けるもの。

①介護・生活支援部門

個別型として効率的なサービスを提供した。また、毎月支援員ミーティングやケア検討会議を開催し、サービスの適正を図った。

②看護部門

適宜状態観察バイタルチェックを行い、バイタルリンクを活用し医師と看護師の連携を強化した。必要に応じて医療機関の受診対応を行った。

■特別養護老人ホーム 新得やすらぎ荘

運営については、利用者入所平均稼働率が86%と低く、11月に感染症が蔓延したことにより入院者が急増したことで稼働率が76%と落ち込み大幅な赤字となった。短期入所については、特養の空床を利用し100%以上の稼働率で受け入れた。

介護職員の退職や病欠等があり職員確保が十分にできなかったが、業務改善や介護サービスの質確保のため業務の見直しを行った。感染症が発生した11月から12月は、感染拡大防止の観点から一時的に面会を中止したが、状況を見極めつつ柔軟な面会対応に努めた。職員研修については、主にWEB研修を活用し全職員に共有できるよう対応した。

- ①介護・生活支援部門
利用者や家族の意向を計画に取り入れ、状態に合わせて計画を変更し、各利用者のニーズや状態に合った個別支援計画の作成に取り組んだ。
- ③看護部門
地域の感染状況に合わせ感染症対策委員会を開き、感染症予防に努めていたが、6月1日から17日に施設内で新型コロナによるクラスターが発生し、その対応に努めた。

■地域密着型特別養護老人ホーム 新得やすらぎ荘

空床期間を短くするために待機者確保に努めたが、補充に時間を要し空床期間が長く稼働率80%後半と低く大幅な減収となった。感染症対策を行いつつ、面会は居室で対応しゆっくりと過ごしていただいた。また利用者の安全性及び介護サービスの質確保と業務負担軽減のため業務改善に努めた。職員研修については、WEB研修を活用し全職員で共有した。外国人介護職員は介護福祉士実務者研修を受講し全員が修了した。

- ①介護・生活支援部門
ユニットでの少人数のケアを実践し、モニタリングを実施、適宜ケアプランを見直しケアプランに基づいたサービスの提供に努めた。
- ②看護部門
適宜状態観察とバイタルチェックを行い、バイタルリンクを活用し医師と看護師の連携を強化した。必要時に医療機関の受診対応を行った。

■訪問介護事業所 新得やすらぎ荘

- ①高齢者訪問介護事業
住み慣れた地域で利用者の望む在宅生活が送れるように可能な限り希望に応じ、介護保険を遵守した適切なサービス提供を行うことができた。サービスの質の確保に向けた研修の実施と受講により、高齢者虐待等の防止に努めることができた。養護採用の兼務訪問介護員が3名退職したため新たに3名補充したが、人材不足は解消されず一部利用制限が必要となり収益に影響が出た。
- ②障害居宅介護事業
利用者が居宅において日常生活を継続できるよう、自立支援の視点を持ちつつも利用者の意向を尊重したサービスに努めた。また、利用者本人だけではなくその家族も明るく生活できるようなサービス提供に努めた。

■居宅介護支援事業所 新得やすらぎ荘

本年度は自立支援を主軸に適切なケアマネジメントを行い、各機関との連携に注力した。令和7年度末まで町内の複数の通所事業所（つむぎ・清水デイ）が廃止されたことでサービス難民の利用者が大量に発生したが、法人内事業所の協力により迅速な代替調整を行い、利用者の生活を支援した。また地域包括支援センターからの新規依頼を全件受け入れるとともに、見学会等を通じて適切なサービスへ繋げた。地域貢献では出前講座や映画会の開催に協力し、介護知識の普及や認知症啓発を推進した。管理面ではBCPに基づく合同訓練の実施や安否確認優先順位の活用により、災害時連携を強化した。また生成AIや連絡ツールの導入、押印廃止等のDX化により、業務効率化と利用者負担の軽減を実現した。さらにケアマネ連絡会での働きかけにより、報酬外業務に対する適切な委託料評価を得る成果を上げた。今後も専門性を高め、地域 包括ケアシステムの更なる拡充に向けた役割を果たしていくこととした。

■日帰りサービスセンター やすらぎ荘

利用者が可能な限り居宅において自立した日常生活を継続できるよう、入浴および食事の提供、利用者が選択することのできる余暇活動の実施や生活動作に関連する機能訓練を実施した。また、健康状態の確認やその他の必要な日常生活の支援を行い、利用者の健全で安定した自宅での生活の助長、社会的孤立の解消、心身機能の維持向上等を図るとともに、利用者家族の身体的・精神的負担の軽減を図った。利用定着や新規利用者獲得につなげるため、楽しみながら運動できる活動や日常生活訓練、脳トレーニング等のサービスの充実を図った。

■清水デイサービスセンター やすらぎ荘

地域での生活が継続できるよう身体機能訓練や日常生活動作訓練など総合的な支援を行った。機能訓練の充実および適切なサービス提供に努めるとともに、利用者アンケートの結果に基づいたサービス内容のさらなる充実を図った。又、居宅介護支援事業所等の関係機関と緊密に連携し、利用率の向上に向けた営業・広報活動を展開した。しかし、地域内における新規利用者の確保が極めて困難であること、また現在の利用者の平均年齢が85歳を超えていること等の要因により、利用者の疾病や入院等に伴い、即座にサービス終了（退所）となるケースが多発し、利用枠の維持が極めて深刻な状況が見られた。そのような状況の中、今後のあり方について慎重に検討を重ねた結果、安定的な事業継続が困難であると判断に至った。令和8年2月27日をもっての事業終了、および令和8年3月31日をもっての事業所廃止とした。事業廃止決定後、利用者ご家族、関係事業所に対して丁寧に説明を行い、他のサービスへ円滑に移行できるように調整を行った。その結果、約8割のご利用者が他事業所の利用などへ移行し各種サービスを継続される形となった。残る約2割のご利用者についても、疾病による医療機関への療養通院や入院、または介護サービスを伴わない在宅での生活継続等となった。

■日帰りサービスセンターやすらぎ荘 たんぽぽ

自立支援に向けた取り組みとして、レクリエーションを活用した生活リハビリを実施し、重度化予防をした。生活リハビリとしては利用者や関係機関の希望を盛り込み、柔軟なサービスを取り入れることで充実化を図った。利用率の向上を図るため、関係施設の需要やニーズを分析する等取組みを進めた。

■屈足わかふじ園

法人の基本理念及び職員倫理綱領、行動規範を遵守、利用者の自立と人権の尊重を基本に、サービスの充実を図るように努めた。利用者への支援については、意思決定を尊重した個別支援計画に基づき、利用者個々のニーズに応じた支援を実施し、定期的にモニタリングを行う事で支援内容の見直しや確認を行った。行事については、食事を伴う行事は利用者や職員のみとし、食事を伴わない一部の行事に関してはご家族にもご案内するなど、感染対策なども念頭に置き可能な範囲で実施した。さらに地域と施設の連携を図り、利用者と地域との関係づくりや、地域の方へ施設や利用者に関する理解の促進等を目的として、施設外部の方も構成員とした「地域連携推進会議」を9月に開催した。運営については、入所定員に満たない状況が続いたことから、令和7年12月1日に入所定員を52名から50名へ定員の変更を行った。その後も法人の利用者開拓委員会と連携して利用者確保に取り組んだが十分な確保ができなかった。また物価高騰に伴い、コストを意識した支出及び経費の削減について、職員と利用者に対し意識改革と啓蒙活動を行った。

- ①介護・生活支援部門
個別支援計画の支援内容を基に、利用者のニーズをその都度各部署と共有し、サービスの提供を行った。
- ②医療部門
体調に変化のあった時は、バイタルリンクで報告し、速やかに対応する事ができた。また必要に応じてリモートでの診察により、医師からの指示を受ける事ができた。

■養護老人ホーム ひまわり荘

老人福祉法、介護保険法及び関係法令を遵守し、利用者の主体性と自立支援に配慮した支援と介護サービスの提供に努めた。また利用者の状態に合わせた適切なサービス提供に努め、個別支援計画書や介護サービス計画書の作成とモニタリングを定期的に実施し、必要時には関係機関や医療機関との連携を図り、より充実したサービスを提供した。利用者の意向に沿った十分な社会参加や地域交流に努め、ご家族を参集した行事の実施やクラブ活動の内容を工夫し、余暇活動の充実を図った。感染症対策として日常の健康管理と施設内の消毒、手指衛生等を徹底し、必要な各種ワクチン接種を実施した。一方、居室での面会を再開、外泊後の抗原検査を中止し、感染症対策を緩和した。サービスの質向上のため、職員の育成及び業務の効率化並びに職員の負担軽減に向けたICT機器の導入を含めた生産性向上の検討を進め、課題の洗い出しのための全職員へのアンケート調査の実施や見守り機器導入施設の見学を行った。

- ①介護・生活支援部門
利用者とのコミュニケーションを図り、情報を集約し、統一した介護サービスを提供出来るように努めた。
- ②看護部門
毎日の体調確認、状態観察を実施し、体調不良時は嘱託医へ報告と受診を対応した。また嘱託医の指示に沿って、専門医へ受診した。

令和7年度決算報告

令和8年3月31日

財産目録

(単位:円)

資産の部		
科 目	摘 要	金 額
流動資産		1,055,759,387
固定資産		4,647,959,102
資産合計		5,703,718,489
負債の部		
科 目	摘 要	金 額
流動負債		160,270,762
固定負債		303,876,555
負債合計		464,147,317
差引正味資産		5,239,571,172

貸借対照表

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	1,055,759,387	流動負債	160,270,762
固定資産	4,647,959,102	固定負債	303,876,555
		基本金	14,500,000
		国庫補助金等特別積立金	2,622,462,142
		その他の積立金	801,167,900
		次期繰越活動収支差額	1,801,441,130
資産合計	5,703,718,489	負債純資産合計	5,703,718,489

事業活動収支計算書

科 目	金 額
介護保険事業収益	505,711,088
老人福祉事業収益	296,697,989
就労支援事業収益	163,028,644
障害福祉サービス等事業収益	745,012,094
生活保護事業収益	72,937,693
その他の事業収益	20,625,928
経常経費寄附金収益	4,125,715
その他の収益	840,000
受取利息配当金収益	3,203,846
その他のサービス活動外収益	9,691,597
施設整備等補助金収益	10,258,000
固定資産受贈額	286,000
収入合計	1,832,418,594
人件費	1,073,576,435
事業費	288,402,448
事務費	225,848,419
就労支援事業費用	168,858,716
授産事業費用	45,081,446
利用者負担軽減額	2,258,276
減価償却費	136,692,918
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 90,249,343
徴収不能引当金繰入	560,000
支払利息	462,228
その他のサービス活動外費用	1,414,261
固定資産売却損・処分損	1
国庫補助金等特別積立金積立額	6,650,000
支出合計	1,859,555,805
当期活動増減差額	△ 27,137,211
前期繰越活動収支差額	1,833,098,341
その他の積立金取崩額	609,747,900
その他の積立金積立額	614,267,900
次期繰越活動増減差額	1,801,441,130

資金収支計算書

科 目	金 額
介護保険事業収入	505,711,088
老人福祉事業収入	296,697,989
就労支援事業収入	163,028,644
障害福祉サービス等事業収入	745,012,094
生活保護事業収入	72,937,693
その他の事業収入	20,625,928
経常経費寄附金収入	4,125,715
受取利息配当金収入	3,203,846
その他の収入	9,691,597
施設整備等補助金収入	10,258,000
積立資産取崩収入	609,747,900
収入合計	2,441,040,494
人件費支出	1,072,998,435
事業費支出	288,402,448
事務費支出	225,848,419
就労支援事業支出	155,707,484
授産事業支出	45,248,961
利用者負担軽減額	2,258,276
支払利息支出	462,228
設備資金借入金元金償還支出	9,948,000
固定資産取得支出	11,931,482
ファイナンスリース債務の返済支出	476,820
積立資産支出	614,267,900
その他の活動による支出	1,414,261
支出合計	2,428,964,714
当期資金収支差額	12,075,780
前期末支払資金残高	907,597,961
当期末支払資金残高	919,673,741

法人交通安全大会 ～今年もセーフティーラリー完走!!～

6月2日(火)、地域交流ホームにて法人交通安全大会が行われました。当日は新得警察署から渡部地域交通課長様にお越しいただき、交通情報や交通事故防止などの講話を拝聴しました。

厚生協会では職員の取り組みとして毎年セーフティーラリーに参加し、安全運転技術の確認と向上を図っています。昨年度に引続きエントリーした全施設が完走し、理事長より表彰を受けることが出来ました。改めて交通事故防止への意識を高める大変有意義な機会となり、今後も地域の交通安全に貢献できるよう安全運転の励行に努めてまいります。



▲新得警察署 渡部地域交通課長様



▲職員一同、交通安全に努めます

法人花火大会 ～花火を見上げて夕涼み～

利用者の皆さんが毎年楽しみにしている法人花火大会が7月28日に行われました。新得中学校グラウンドから打ちあがる約200発の花火が夜空を彩り、短い時間ではありましたが心地よい夏の夕涼みのひと時となりました。

屈足では、8月4日に花火の打ち上げがあり、9名の利用者のご家族様も参加して間近で見る迫力ある花火を見上げ、皆さん楽しまれていました。



▲彩る夜空を見上げて
(わかふじ寮)



▲近くで見ると迫力満点!
(わかふじ寮)



▲たまや〜!!
(ひまわり荘)



▲フィナーレも最高でした!
(ひまわり荘)



▲道路の歩道付近で集まり・花火大会
(やすらぎ荘・新得やすらぎ荘)



▲ご家族もお招きし、
一緒に楽しめました
(屈足わかふじ園)



▲天候にも恵まれ、
きれいな花火でした
(屈足わかふじ園)

屈足わかふじ園

家族交流会

～盛り上がったサッカーKKKカップ～

6月20日に家族交流会を行いました。この交流会は、家族会総会前に利用者様とご家族と一緒に交流する機会を設けようと、昨年から実施しています。

今年の交流会では、2チームに分かれ、対面する方同士でサイコロを振り、数が大きい方が敵陣にコマを進めていくゲームを行いました。その名も、今年行われたサッカーワールドカップにちなんで、サッカーKKKカップ(KKK⇒屈足わかふじ園家族交流会…の略)です。

参加された利用者様やご家族からは「楽しかった」という言葉を多数いただき、笑顔に溢れる交流会となりました。



▲皆様、お集りいただきありがとうございます



▲ご家族も一緒に楽しい時間を過ごしました

屈足わかふじ園

One Man Digital Orchestra

佐藤春美オールスターズ演奏会

～多種多様の楽器を演奏～

6月25日に、元自衛隊の佐藤春美さんによる通算13回目の演奏会を行いました。

佐藤さんは陸上自衛隊第5音楽隊のサクソ奏者としてご活躍をされておりましたが、定年を迎えられ退職後からは、サクソ教室・作曲・レコーディング・CD作成などを業務とする「佐藤春美ミュージックプランニング」を設立し、ご活動されております。

今回の演奏会では、T-SQUAREやスタジオジブリ集など、利用者さんの世代に合わせて選曲され、演奏していただきました。特に懐メロ・名曲シリーズは大変好評でした。アンコールにもお応えいただき、トークを交えて1時間ほどの演奏会でしたが、利用者・職員共々拍手が絶えず、あっという間に時間が過ぎました。

来年も素敵な演奏をぜひよろしくお願いします。



▲皆様、お集りいただきありがとうございます



▲1年振りの生演奏! よろしくお祈りします

わかふじ寮

ふるさとの集い

～ご家族と一緒に春を満喫～

5月9日(土) ご家族をお招きし「ふるさとの集い」を行いました。各テーブルではジンギスカンを囲み、ご家族とゆっくり語り合う姿があちこちで見られました。母の日に合わせてカーネーション贈呈も毎年恒例となっていて、自然と笑顔がこぼれる和やかな雰囲気になりました。



▲ありがとうの気持ちを込めて



▲乾杯～!

自治会フロアカーリング大会

～優勝目指して!～

6月20日(土) 交流ホームと町民体育館に分かれて自治会フロアカーリング大会が行われました。競技は個人戦のトーナメント形式で行われ、初心者の方もいる中でわずかな力加減で勝敗が決まるなど、それぞれのコートで楽しむ様子が見られました。競技後はお楽しみのジンギスカンを食べながら表彰式があり、優勝した方は大きな賞品を手し満面の笑顔を浮かべていました。



▲狙いを定めて



▲賞品の中身は何か♪

研修旅行

～1泊旅行は国立アイヌ民族博物館「ウポポイ」へ～

6月から7月にかけて、皆さん心待ちにしていた研修旅行がありました。日帰り旅行は、買物三昧やボウリング、帯広美術館で開催している「チームラポ」の展示を観覧など5班に分かれ、各々好きな旅行に参加して楽しまれていました。1泊旅行は白老まで足を運び「ウポポイ」を見学し登別温泉で1泊。翌日は登別マリパークでイルカショーなどを楽しみました。仕事をしている時とはまた違った表情が見られ、皆さん充実した時間を過ごせたようです。



▲一緒に食べると楽しいね



▲トゥレップンと記念撮影



▲童心に帰って

ひまわり荘 新得認定こども園交流会 ～かわいい子供に自然と笑みが…～

6月22日、新得認定こども園のぞう組さん19名、きりん組さん19名の子供たちが遊びに来てくれました。交流では子供たちと一緒に手遊び、こども園の運動会で行った「ガンバリマンのうた」や「好きすぎて滅!」の遊戯を披露してくれました。

かわいい子供たちの歌や踊りに利用者の皆さんは、手拍子をして「かわいいね～」と自然と笑みがこぼれ、見ていました。



▲みんなで手遊び



▲元気がいっぱい!



▲握手でお別れ

やすらぎ荘 GW特別映画会 ～大型連休のひと時～

5月4日・5日の2日間、施設内で映画会を開催しました。1日目は直木賞作家・佐藤愛子原作、『九十歳。何がめでたい～本音で生きる姿を描いた物語～』、2日目は宮崎駿が劇場映画を初監督した『ルパン三世 カリオストロの城』を上映しました。

年に数回ある映画会ではありますが、聴覚に障害のある利用者にも楽しんでもらうために、字幕付きにて上映をしています。今回も多く利用者が画面に夢中になって楽しんでいました。



▲張り紙にてお知らせ



▲映像は字幕付きです

新得やすらぎ荘 長寿の祝 ～ますますおげんきで～

5月29日に養護・地域・新得やすらぎ荘の3施設合同でご長寿のお祝いをしました。6名の方がお祝い者として壇上に上がりました。お祝い者はそれぞれ、紫や白、黄色のちゃんちゃんこを着て、各施設長からプレゼントが贈呈されました。

お祝いした後はちらし寿司や茶わん蒸しなどのごちそうを堪能し、みなさん合同行事を楽しまれていました。

ひまわり荘 日帰り旅行 ～熊の大きさにびっくり!～

6月17日、サホロリゾートベア・マウンテンに日帰り旅行へ行きました。鉄格子で守られた専用のバスに乗り換えヒグマウォッチング、利用者の皆さんは「こんなに近くで見たのはじめて」「大きいね～、でも顔は可愛いね」等、近くで見る熊に驚いていました。また途中のベアウォッチポイントではガラス越しに見る大きな熊に大興奮でした。

帰りには新得そばの館にて天ぷらそばを食べ、「そばも天ぷらも美味しい」「楽しくて、美味しくて最高だわ」と大満足の日帰り旅行でした。



▲近くで見る熊は大きい!



▲熊とハイタッチ(笑)



▲美味しい蕎麦を舌鼓

地域・新得やすらぎ荘 お花見・新得神社 ～今年も桜が咲きました。～

毎日風の強い寒い日が続き、なかなか出歩けず。風のない日に撮影できました。

今年地域新得やすらぎ荘に入られ、施設から眺められる桜を初めて見る五十嵐様と本田様です。



▲五十嵐 様



▲本田 様



▲古稀おめでとうございます!



▲米寿おめでとうございます!

ご寄付・ご寄贈ありがとうございました

令和8年3月から
令和8年6月まで(敬称略)

【本部】

新得町 五十嵐 哲也
清水町 延興 明子
帯広市 吉田 剛史
熊谷 カヨ
福田 實

【わかふじ寮】

新得町 山口 憲夫
川崎 勉
佐藤 勝博
新泉寺
鹿追町 日下 正光
標茶町 大山 敏宏
札幌市 坂口 和成
本間 満

【屈足わかふじ園】

新得町 岡本 昌子
清水町 中島 弘志

音更町 大倉 盛男
内田 智子
池田町 小川 義成
帯広市 佐藤 重雄

乙戸 巧
長屋 悦子
上富良野町 浅井 敬子
南富良野町 加藤 友和
札幌市 上林 絵里奈
本間 園子

【ひまわり荘】

新得町 新得町社会福祉協議会
板垣 勝彦
春木 俊雄
高橋 ゆかり
館内 弘美
斉藤 明夫
帯広市 太田 明子
札幌市 大和田 由美

旭川市 小林 等
恵庭市 中田 明美
牧野 温志
千歳市 松崎 末子
東京都 高橋 香織
埼玉県 本田 智
小山田 一秀

【やすらぎ荘】

清水町 佐藤 幸恵
帯広市 神成 裕二
熊谷 カヨ
札幌市 伊藤
五代儀 貢
毛利 勇二
函館市 岩崎 友樹
洞爺湖町 高清水 徹子

【新得やすらぎ荘】

新得町 佐藤 澄子

鹿追町 三井 福源
芽室町 後藤 幸雄
中島 裕子
帯広市 寺崎 洋子
菊地 寛
むかわ町 小村 栄子
士別市 佐藤 孝一
札幌市 毛利 勇二
佐藤 恵美子
東京都 石井 令子
埼玉県 小山田 一秀

【地域・新得やすらぎ荘】

新得町 高橋 榮幸
栃木県 本間 豊

【居宅・新得やすらぎ荘】

新得町 増田 美智子

社会福祉法人厚生協会では、法人の情報をホームページで公開しています。ご意見やご希望についても電話・Eメールで受け付けていますのでご利用ください。

厚生協会ホームページ

<https://www.wakafuji.or.jp>

厚生協会E-mailアドレス

wakafuji@netbeet.ne.jp
(わかふじ寮)
yasuragi@rainbow.ne.jp
(やすらぎ荘)
wakafuji@rose.ocn.ne.jp
(屈足わかふじ園)
himawari@bb.rainbow.ne.jp
(ひまわり荘)
ssh5209@khaki.plala.or.jp
(新得白生舎)

この広報誌の中で使用させていただいている利用者の顔写真等は、すべてご本人の了承をいただき、掲載しています。

編集後記

今年の7月は、涼しく過ごしていましたが、8月のお盆を過ぎても夏日が続いていてこの頃で少し夏バテ感がありますが、年度替わりと春からの出来事を掲載しています。

秋のサービスセール

♪♪お楽しみ抽選会も開催します♪♪
店舗受付のみです！空くじなします！！

10月13日(火)～

11月30日(月)まで

クリーニング

スーツ上下 が 1,240円→ 870円
Yシャツ が 210円→ 150円
羽毛布団(s) が 5,610円→ 3,930円
表示価格はすべて税別です。
別途消費税(10%)がかかります。
他の商品もセール対象ですが、じゅうたん・羊毛布団等の一部は除外させていただきます。詳しくはお問い合わせください。

通常価格より

30%
OFF

サービスセール中は混み合うため、2週間程度お時間をいただきます。何卒ご容赦ください。お急ぎの場合は、対応いたしますので、お気軽にお申し付けください。

クリーニングのことなら

社会福祉法人 新得白生舎
厚生協会

新得町西1条北1丁目 TEL: 64-5209

営業時間: 9:00～17:00(月～金)

9:00～12:00(土)

定休日: 日曜日・祝日

集配も行います。お気軽にお申し付けください。